

透析医療の情報誌

ねふろん



オンラインHDFに挑戦

「一人一人に最適な透析」が利点

医療法人社団三樹会 吉野・三宅ステーションクリニック
(鳥取県鳥取市)

はい！透析室です ①

透析クリニックに介護施設を併設 地域の「困った」をすくい上げる
マリエ医院(大阪府東大阪市)

はい！透析室です ②

「きょうもここに来てよかった」 透析生活に「笑顔」と「元気」を
社会医療法人同仁会 耳原総合病院
(大阪府堺市)

「一人一人に最適な透析」が利点

同一建物に「サ高住」も併設へ

医療法人社団三樹会

吉野・三宅ステーションクリニック

(鳥取県鳥取市)

院長 **中村 勇夫**先生

Isao Nakamura

1983年、鳥取大学医学部卒業、1992年、鳥取大学 医学博士。日本泌尿器科学会専門医、日本透析医学会専門医、厚生労働省認定臨床修練指導医、日本腎臓学会、日本排尿機能学会、日本老年泌尿器科学会、日本小児泌尿器科学会、日本泌尿器内視鏡学会、日本性感染症学会、日本脊髄障害医学会。



吉野・三宅ステーションクリニックでは、2012年度の診療報酬改定を受けてオンラインHDFを本格導入し、「一人一人に最適な透析」を提供できると手応えを感じています。2017年6月には、クリニックと同じ建物にサービス付き高齢者向け住宅（サ高住）もオープンさせる予定です。その狙いは？院長の中村勇夫先生にお話を伺いました。

12年度報酬改定受け本格実施

当院は1991年、現在地から5キロほど離れた場所に開院した「三宅医院」が始まりです。現在の「吉野・三宅ステーションクリニック」は、宿泊施設を2011年に買い取り1階部分を改装したものです。わたしは2002年4月から勤務していますが、鳥取市内や周辺地域で高齢化が進んだと痛感しています。透析患者さんの平均年齢は14年間で急激に高まり、現在は65歳ほど。これに伴って透析処方もどんどん変化しています。

クリニックを移転させてからこれまでに、コンソールをオンラインHDF対応型の「NCV-2」「NCV-3」に切り替え、血液浄化フィルタなども「MFEX-Eシリーズ」「FIX-Sシリーズ」にシフトさせました。

ただ、オンラインHDFの適用は、この段階では透析アミロイドーシスなどの患者さんに限られていました。そのため、一時期は対応を見合わせ、2012年度の診療報酬改定ですべての患者さんへの実施が認められたのを受けて、あらためて本格的に実施しました。現在は原則としてすべての患者さんをオンラインHDFの対象と想定し、実際には7割ほどに実施しています。

希釈量や透析液流量、希釈方法を患者さんごとに変更できるのがオンラインHDFの大きなメリットです。これによって、一人一人に最適な条件を提供できるようになりました。

希釈量は大体300mL/minがベースですが、患者さんの合併症に応じて調整するなどいろいろと試行錯誤しています。「なるべく短時間で済ませてほしい」というニーズにできるだけ応えるため、後希釈で対応することもあります。プログラムのバリエーションが豊富なので、透析を始める前にチェックを徹底し、

トラブルが起きてもすぐ対応できるように、看護師一人当たりの患者さんの受け持ちは5人前後に抑えています。

IHDF、血圧コントロールに有効

オンラインHDF対応機を全台導入して4年。

正確な統計は取っていませんが、透析中の血圧低下の予防だけでなく、不均衡症候群やかゆみ、レストレスレッグス症候群といった合併症にも非常に有効だと感じています。検査値自体に大きな変化はありませんが、「足の痛みが和らいだ」「かゆみが減った」という患者さんが多い印象です。

IHDF（間歇補充型血液透析濾過）の設備も少しずつ整備していきます。現在は患者さん2人に実施しています。いずれも治療を始めると血圧が「ストン」と低下するタイプなので、最初に補液を多く設定し、除水量を少しずつ増やすようにしています。IHDFを始めからは、極端な血圧低下はみられなくなりました。お年寄りには血圧のコントロールが難しいケースが多いので、これからはこちらを活用する場面が増えるでしょう。

フットケアにも力を入れています。当院には糖尿病から透析を導入された患者さんが非常に多く、末梢神経障害を併発するケースも増えています。本来は隠したいはずの足をあえてオープンにすることで、「足をきれいにしよう」という患者さんの意識を高めることができました。

2016年度の診療報酬改定で「下肢末梢動脈疾患指導管理加算」が新設されたこともあって、この4月からはABI（足関節・上腕収縮期血圧比）やSPP（皮膚灌流圧）の値を定期的にチェックし、必要なら専門的な治療を行える中核病院につないでいます。



同一建物に「サ高住」は県内初

宿泊施設だったころの客室フロアを今、改装しています。客室フロアはこれまで有効活用できていませんでしたが、改装後の2017年6月には2階部分に透析ベッドを12床整備し、全部で66床にします。そして、3～5階にはサービス付き高齢者向け住宅「樹の郷 にこふふ」を新たにオープンさせます。

月・水・金曜に3クールずつ透析を実施しているため、今は透析を終えた患者さんのための休憩スペースを確保し切れていませんが、増床後は病床の運営にもかなりゆとりが出てくるでしょう。

「にこふふ」は3階が13室、4階が10室、5階が12室。3階では要支援か要介護認定を受けている人を受け入れ、居宅介護支援事業所も整備します。「にこふふ」を新しく造るのも、患者さんの高齢化対策の一環です。透析のために通院するのが難しいひとり暮らしのお年寄りを中心に入居していただき、1、2階で透析治療を受けていただくイメージです。

希望される患者さんをご自宅まで送迎していますが、他県など遠方から通う患者さんも多く、これにも限界があります。当院はJR鳥取駅からすぐなので、「にこふふ」に入居していただいたら通院のハードルを大幅に下げられるでしょう。

医療機関と「サ高住」を同じ敷地内に併設させた前例はありませんが、透析施設と同じ建物に併設するのは県内でおそらく初めてです。実際に立ち上げてどうなるか。未体験の試みですが、今から楽しみです。

施設概要



外観



透析室

医療法人社団三樹会 吉野・三宅ステーションクリニック

〒680-0846 鳥取県鳥取市扇町176

理事長：三宅茂樹先生

名誉院長：吉野保之先生

診療科目：泌尿器科、内科、人工透析

透析ベッド数：54床（2017年1月現在）

TEL：0857-21-8825 <http://stationclinic.com>

はい!

透析室です

1

マリエ医院

(大阪府東大阪市)

院長 はまだ たか よし
濱田 崇嘉 先生



透析室のスタッフの皆さま

透析クリニックに介護施設を併設 地域の「困った」をすくい上げろ

大阪府東大阪市のマリエ医院では、介護施設を併設して透析が必要な独り暮らしのお年寄りなどを受け入れています。透析のために通院するのが難しい患者さんを安全・安心にサポートしようという試みです。院長の濱田崇嘉先生の信条は「皆が困っていることの一步先」を見つけること。地域の高齢化がこれから本格化する中で、透析患者さんご家族のニーズを見極めます。

独居の高齢者に“帰る場所”を

マリエ医院の“マリエ”はハワイの先住民たちの言葉で、「やすらぎ」や「癒し」という意味です。とても優しく耳に入りやすい言葉なので、開業を決めたときこれを院名にしようと思い立ちました。ただ、産婦人科のクリニックと間違えたのか、「婦人科健診はやってますか」という電話が以前はありました。

透析が必要なお年寄りを受け入れるため、マリエ医院と同じ敷地内に特別養護老人ホーム「ラブラージュ」(定員80人)を併設し、少し離れた場所には介護老人保健施設「五十忠(いとちゅう)」(同100人)があります。スタッフは、その日に透析を受ける患者さんをラブラージュへ迎えに行き、スタッフ同士が情報交換します。

マリエ医院を立ち上げたのは2006年4月のことなので、もう10年が経ちました。大学を卒業した後、大阪市立大学医学部附属病院で内分科棟とCCU(心疾患集中治療室)で研修し、その後は民間の関連病院で勤務しました。そのときに透析医療と出合ったのがマリエ医院を立ち上げたきっかけです。

このころに痛感したのが、退院後に透析が必要なのに通院するのが難しい独居のお年寄りや、認知症がある患者さんの受け

入れ先がほとんどない現状です。国の政策で病院側は入院の短縮を進めざるを得ないけれど、実際には在宅に復帰するのが難しいケースがたくさんあります。

こうした人たちをどうサポートすればいいのか、当時はものすごく悩みました。

国の制度を「見返そう」

今も忘れられないのが重度の糖尿病だったおばあちゃんです。「風邪」をこじらせて腎盂腎炎になりその後、透析を導入しました。肉親は遠方にいらっしゃるそうで、普段は独り暮らしという方です。治療が一段落したタイミングでそろそろ退院だと伝えたと、おばあちゃんはインスリンを自分で注射することや、薬を飲むのも食事を作るのもすごく不安がっていました。そこで、地域の老健や特養に相談しても軒並み「受け入れ困難」という返事。退院後の施設入居先はほとんどなし。介護施設にしてみれば無理もないことですが、透析患者さんにとっての在宅復帰のハードルの高さを強く感じました。

結局、この方は自宅に退院しました。だけど、ある日送迎車で迎えに行くと、ご自宅で亡くなっていました。このときの悔しさは今も忘れられません。

それもあって、クリニックを立ち上げるなら、通院や在宅復帰が難しい高齢の透析患者さんをサポートしようと考えていました。自分たちは透析に通えないお年寄りのニーズをすくい上げるイメージで、わたしの中でマリエ医院は、介護施設とあくまでセットです。今の体制を実現できるめどが立たなかったら、開院していなかったかもしれません。

現在の患者数は90人ほど。わたし一人でカバーできる数に抑えています。周辺の急性期病院からも退院患者さんを引き受け、もしもこちらで患者さんの容態が急変したら紹介元の病院に対応を依頼します。

患者さんやご家族はとても喜んでくれるし病院からも重宝され、とても良い形で地域貢献できていると思います。

ないもの(困っている)の“一歩先”を

東大阪市は人口50万都市で、2010年時点での高齢化率は23.6%でした。2025年にはこれが31.4%に跳ね上がり、その後上昇し続けるとみられています。マリエ医院がある地域は

市内でも2番目の高齢化率の高さで、外来でも高齢の患者さんが目立ちます。

高齢化が進むにつれて心疾患がある透析患者さんも増えているので、IHDF（間歇補充型血液透析濾過）を2016年10月に導入しました。

心血管系の合併症が多い高齢者では、透析中に血圧が急に下がるリスクが顕著です。それだけに、心臓への負担が少なく血圧をコントロールしやすいIHDFは、今や不可欠な設備だと感じています。導入したてですが、回診のときに「透析のあとが楽」「食事をしていても血圧が落ちない」と患者さんに声を掛けられるなど好評です。透析施設にIHDFを導入して介護施設を併設するというわたしたちの今のスタイルは、通院できない透析患者さんを支えるために行き着いた現時点での最終形です。

いつも意識しているのは「皆が困っていること」の一歩先を考えること。

患者さんやご家族が今、何に困っているのか——。これからもそこを見極めていこうと思います。

施設概要



施設名：マリエ医院

所在地：〒579-8064 大阪府東大阪市池島町8丁目2-11

T E L：072-981-6006

院長：濱田崇嘉

診療科目：内科、整形外科、人工透析

透析ベッド数：24床

透析室のスタッフ数：医師1人(ほか非常勤3人)、看護師9人、臨床工学技士1人、看護助手7人、事務スタッフ3人

透析シフト：2シフト制

1 2006年に開院したマリエ医院。「マリエ」とはハワイの先住民の言葉で、「やすらぎ」や「癒し」を意味します

2 マリエ医院と同じ敷地内にある特別養護老人ホーム「ラブラージュ」。1.5km離れた場所にある介護老人保健施設「五十忠」。

通院が困難な透析患者さんを受け入れています

3 落ち着いた雰囲気のあるラウンジ。透析患者さんが食事や休憩に使います

4 透析室。2016年10月、最新式のIHDFの設備を導入しました

5 地域の医療ニーズをすくい上げたいと診療に取り組む濱田先生

はい！

透析室です

2

社会医療法人同仁会
耳原総合病院
腎臓内科・透析センター
(大阪府堺市)

センター長 大矢 麻耶先生



透析センターのスタッフの皆さま(前列左から2番目が大矢先生)

「きょうもここに来てよかった」 透析生活に「笑顔」と「元気」を

院内の随所にアートを施したり、けやきマークの軽自動車12台で透析患者さんの個別送迎を行ったり。2015年4月に新築移転した社会医療法人同仁会 耳原総合病院の透析センターでは、透析患者さんの生活を丸ごとサポートするさまざまな取り組みを展開しています。センター長の大矢麻耶先生が目指すのは、患者さんに「笑顔」と「元気」を提供できる透析室。「きょうもここに来てよかった」。患者さんのそんな一言がスタッフの支えです。

いつもにぎやかで「まるで家族」

透析生活に入るとしんどい場面が多いのは当然ですが、患者さんに少しでも有意義に、「きょうもここに来てよかった」と思っただけの透析室をつくるのが目標です。

わたしたち耳原総合病院の透析室は、ワイワイガヤガヤ“大阪のノリ”でいつもにぎやかです。長く勤めている中堅やベテランクラスのスタッフが多いこともあって、お互いに何でも知っていて家族みたいです。

「そこまで踏み込んでいいのか」という話もあるかもしれないけど、患者さんととことん付き合い、「笑顔」と「元気」を届けるのがわたしたちのスタイル。ちょっとうるさいけどわたし自身、結構、それを気に入っています。

患者さんに希望を 随所に「ホスピタルアート」

当院は2015年4月、現在地に新築移転しました。約1万9000枚のハートで双葉をかたどったオブジェをエントランスホールの

天井に設置したり、「協同の壁」と呼んでいる病院の南側の外壁に巨大なけやきを描いたり、新病院では随所にアートを施しています。

「ホスピタルアート」と呼ばれる試みです。

医療がまだ十分に行き届かなかった時代、耳原総合病院の診療は民家の中2階からスタートしました。病を治すだけでなく、患者さんの心にも希望のあかりを灯したいという創設当初のわたしたちの祈りを、新病院のホスピタルアートに託しました。今後は手術室や透析室にもアートを増やします。

透析に通う患者さんの負担を和らげようと、けやきマークの軽自動車12台を使ってご自宅から病院まで個別送迎を無料で行い、現在は約140人がこのサービスを利用しています。マイクロバスの送迎だと、車いすの患者さんが乗り込むのは困難です。介護タクシーの利用代は月2万～3万円と安くはなく、これを負担し切れない患者さんもうらっしゃいます。

個別送迎の費用は決して軽くはありませんが、耳原総合病院では「無差別・平等の医療」を理念の一つに掲げています。患者さんの健康がお金で左右されるのを見過ごすわけにはいきません。

認定看護師を中心にフットケア

新築移転に伴い、従来のサテライトクリニックの透析部門を統合して誕生したのが、現在の透析センターです。高齢化によって、基礎疾患を持つ透析患者さんも増え、リスクが高まっています。こうした変化にいかに対応するかが大きな課題です。

透析のベッドは72床。この地域では有数の規模です。透析はこれまで、1日1クール半ほどしか提供していませんでしたが、移転後はこれを2クールに充実させ、従来の約160人から200人ほどに受け入れを増やすことができました。現在、35床ではオンラインHDFに対応済みで、引き続きこれを拡大します。

総合病院の内部に移転したことで、透析センターでは容態急変へのスピーディーな対応や、手厚い運動療法の提供が可能になりました。

また、理学療法士（PT）・看護師らのリハビリチームが透析リハビリを推進しているほか、看護師を中心に患者家庭訪問を実施し、診療所時代からの伝統を引き継ぎ透析患者の不安の解消に努めています。さらに、皮膚・排泄ケア認定看護師（WOCナース）など看護師中心のフットケアチームに医師も加わり、フットケアラウンドも実施しています。

組織横断的に治療を提供

病院が提供する医療は外来、入院、在宅といった段階ごとに分断されがちで、こうした傾向は透析部門でも同様です。そこで、部門間の縦割りではなく複数の職種や診療科を横断して治療に携われるようにと、当院では循環器センター、消化器センターに加え2015年9月、「腎臓内科・透析センター」を立ち上

げました。今後はこのセンターを軸に保存期から透析期、終末期まで、腎不全の患者さんの治療に一貫して関与できる体制を整えたいと考えています。

例えば、2016年11月には病院のみみはらホールに患者さん・ご家族80人が集まり、シャント管理の勉強や看護師・リハビリスタッフと一緒に体操をしました。このような患者教育を年に数回、実施しています。

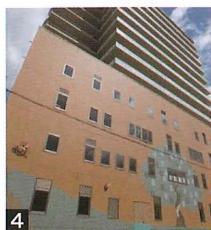
新築移転で従来の体制をすべてバージョンアップしたような感じで、現在はまだ発展途上で課題を洗い出している段階です。まずは、患者さんの情報を横断的に共有できるシステムを2017年につくります。

大変な透析生活の中、わたしたちの透析センターに足を運んでくれる患者さんに、少しでも元気になって帰ってほしいとも思っています。



2016年11月13日に開いた「透析教室」の様子。テーマは「笑いあふれる透析センターに」。透析を受けている患者さんなど80人が集まり、シャント管理の最新情報などを伝えました

施設概要



施設名：社会医療法人同仁会 耳原総合病院

所在地：〒590-8505 大阪府堺市堺区協和町4-465

T E L：072-241-0501（代表）

院長：奥村伸二

病床数：386床

透析室のスタッフ数：医師4人、看護師28人、臨床工学技士16人、看護助手6人

透析シフト：昼・夜2シフト制

1 「ふれあいエントランスホール」。住民が持ち寄った100円をイメージする約1万9000枚のハートを組み合わせ、巨大な双葉をつくりました

2 2015年4月にオープンした新病院には、特定集中治療室から緩和ケア病棟まで整備しました

3 絵画やイラスト、オブジェなど院内のそこかしこにアートが施されています

4 病院南側の「協同の壁」。巨大なけやきをモチーフに、この地域に根差す医療を表現しています

NCV-3

多様化する透析治療に対応！

大画面振動タッチパネルによる視認性・操作性の向上

- 間歇補液プログラム
- 見針絆[®]検知器連動 (オプション)
- 治療データカスタマイズ機能 (データ表示画面のカスタマイズ)
- ETRF交換サポート機能
- ヒートピュアポート[®] (標準装備)
- 返血バックアップ機能 (標準装備)

高度管理医療機器 / 特定保守管理医療機器
医療機器承認番号: 22400BZX00125000
一般名称: 多用途透析装置
販売名: 透析用監視装置 NCV-3

Miharigan

見針絆用検知器と透析用監視装置NCV-3を接続することで、透析中の針抜けや血液漏れを検知した際に血液ポンプが停止します。



見針絆 200枚入り箱

見針絆[®]

一般名称: シヤントホルダ
クラス分類: クラスI (一般医療機器)
医療機器届出番号: 27B1X00045000103



マキシフラックス[®] MFX[®]-eco タイプ



血液透析濾過器 高度管理医療機器
医療機器承認番号: 22200BZX00931000

BPA
FREE



maxiflux[®]

- 透水性能に優れるポリエーテルスルホン中空糸膜素材に採用しました。
- 性能の異なるMFX[®]-M eco・MFX[®]-E eco・MFX[®]-S eco・MFX[®]-U ecoの4種類をラインアップしています。
- 最大3.0㎡までの膜面積をラインアップしています。
- 環境ホルモンBPA[®]の溶出リスクがありません。

※BPAは環境ホルモンのビスフェノールAの略語です。

資料請求先

ニプロ株式会社

大阪市北区本庄西3丁目9番3号

2016年8月作成